**２０２３年７月30日(土)　市民交流センター会場**

 伊藤伊那男

 大欅どんと構へて夏終る 大野田井蛙

〇 昨夜来たスナックは何処夏真昼 天野明雀

 向日葵や明日には背丈超されさう 木村さとみ

 人来るや涼し人去るまた涼し 横澤放川

 鉤の手に北国街道日の盛り 木村由里子

 奥坂まや

 父親をゴジラと見立て水鉄砲 小泉博夫

 三代の遺影なりけり瓜三つ 伊藤伊那男

 禅院の裏庭の溢るるダリア 朝川由美子

〇 神宿る風穴山に蝉時雨 向井久子

 けふひと日鳴き切ると決め蟬時雨 大野田井蛙

 横澤放川

 冷し瓜芯のところがややぬるし 伊藤伊那男

 山国やダリアは強き色放つ 朝川由美子

〇 蟻の列疾風のごとく幹下る 奥坂まや

 瓜熟るる小海駅まで登り坂 小泉博夫

 もてなしは虚子の逸話と冷し瓜 伊藤伊那男

 向井久子

 向日葵や明日には背丈超されさう 木村さとみ

 花豆のぷつくり朝の畑涼し 木村由里子

 晩涼や風は群青山の里 吉田朝江

 母の手と同じ染みあり胡瓜揉み 勝又樂水

〇 けふひと日鳴き切ると決め蟬時雨 大野田井蛙

 吉田朝江

 神宿る風穴山に蝉時雨 向井久子

〇 山門を入り朝蟬のまばらなる 朝川由美子

 青芝の奴隷と言ひて住職は 木村さとみ

 鉤の手に北国街道日の盛り 木村由里子

 日盛や原色うねる遊園地 奥坂まや

 勝又樂水

 城址は坂の下なる冷し瓜 伊藤伊那男

〇 晩涼や風は群青山の里 吉田朝江

 青ぬくる信濃の空や青胡桃 大野田井蛙

 青芝の奴隷と言ひて住職は 木村さとみ

 三代の遺影なりけり瓜三つ 伊藤伊那男

 小泉博夫

〇 土用芽もさながら噴きぬ大浅間 横澤放川

 夏暁の玻璃を雀のひた往き来 勝又晃衣

 もてなしは虚子の逸話と冷し瓜 伊藤伊那男

 日盛や原色うねる遊園地 奥坂まや

 大欅どんと構へて夏終る 大野田井蛙

 岡部健二

 母の手と同じ染みあり胡瓜揉み 勝又樂水

 蟻の列疾風のごとく幹下る 奥坂まや

〇 もてなしは虚子の逸話と冷し瓜 伊藤伊那男

 風止みて炎帝威光増すばかり 吉田朝江

 昨夜来たスナックは何処夏真昼 天野明雀

 天野明雀

 人来るや涼し人去るまた涼し 横澤放川

〇 蟻の列疾風のごとく幹下る 奥坂まや

 立葵列車の過ぎる音がする 塩川孝治

 花芯へと黄を深める白ダリア 勝又晃衣

 伸びやかに広がつてをる夏の川 塩川孝治

 塩川孝治

 千曲川夏の大地を切りさいて 岡部健二

 けふひと日鳴き切ると決め蟬時雨 大野田井蛙

〇 Sの字に乾ききつたる蚯蚓かな 向井久子

 転がして瓜の値段の何んぼかな 小泉博夫

向日葵や明日には背丈超されさう 木村さとみ

 大野田井蛙

 花芯へと黄を深めたる白ダリア 勝又晃衣

 昨夜来たスナックは何処夏真昼 天野明雀

 母の手と同じ染みあり胡瓜揉み 勝又樂水

 冷し瓜浅間隠しの見ゆる町 伊藤伊那男

〇 もてなしは虚子の逸話と冷し瓜 伊藤伊那男

 朝川由美子

〇 指呼涼しあなたに千曲小学校 横澤放川

 昨夜来たスナックは何処夏真昼 天野明雀

 転がして瓜の値段の何んぼかな 小泉博夫

 開け閉ての引戸三枚片かげり 勝又晃衣

 逃がさうと思ひ包めば噛む蜥蜴 木村さとみ

 勝又晃衣

〇 日盛や原色うねる遊園地 奥坂まや

 大声がお花畠に殴り込む 奥坂まや

 蝉の声聞きつ風穴別天地 吉田朝江

 天牛の骸蟻曳くエンヤラヤー 奥坂まや

 ぴくと動くはちぎれたる蜥蜴の尾 朝川由美子

 木村由里子

 ごろごろと兄弟八人瓜畑 小泉博夫

〇 谷へ向かひて青山の迫り出せる 塩川孝治

 石垣の隙間にかすか涼風を 向井久子

 晩涼や風は群青山の里 吉田朝江

 ぴくと動くはちぎれたる蜥蜴の尾 朝川由美子

 木村さとみ

 冷し瓜芯のところがややぬるし 伊藤伊那男

 Sの字に乾ききつたるかな蚯蚓かな 向井久子

〇 昨夜来たスナックは何処夏真昼 天野明雀

 一軒で足るを知らずや暑気払 大野田井蛙

 ごろごろと兄弟八人瓜畑 小泉博夫